



園だより

9月号

新宿区立西戸山幼稚園 令和7年9月1日発行

一人一人の原風景

園長 佐藤 淳穂

「ヤゴが住む池にしたい！」と池の改造プロジェクトに取り掛かってから2カ月。今、池では、植えたばかりのアシの葉にいくつものヤゴの抜け殻がついています。こんなにも早く変化が見られるとは思っていませんでした。「あ、ここにもあった。」どうやら毎朝、次々に新しいヤゴが羽化をするために水の中から上がってきているようです。美しく透き通ったヤゴの抜け殻を見ていると、アシの葉に必死につかまって、命がけで脱皮し、全力で翅を広げたのだらうと想像できます。なんとも愛おしくなります。

夏休みの園庭開放中のことです。池の中に増殖した藻を取り除いていると、取り出した藻の中にもたくさんのヤゴの赤ちゃんがいました。数ミリから2センチくらいの小さなヤゴが動いています。Aちゃんはヤゴを手ですくうと「やわらかい」とてのひらに乗せました。そして、お腹に這わしたり池まで運んでそっと逃がしたりを繰り返しました。ヤゴをスプーンですくう作戦が始まると、今度はBちゃんのお母さんがお椀を片手に夢中になっていました。



池がトンボの住処となり、命の循環が巡り始めました。秋が深まるにつれ、また違った種類のトンボがやってきて、生物の多様性が進むかもしれません。1学期の終わりには「池に名前を付けよう」と親子で投票を行いました。そして、「みんなの池」と決定しました。これから、池を囲んでたくさんのワクワクが生まれそうです。

玉川大学の大豆生田啓友先生が学生に「ぐりとぐらの絵本というとなんか何を思い出しますか」と聞いたところ「大きなホットケーキ」「動物園に行ってウサギを見たら絵本を思い出した」※ぐりとぐらはネズミです。などいろいろな答えが返ってきたというお話をされていました。それは、「子どものころの体験は子どもの時のものだけではない」ということを示しています。子どもたちが出会っている様々な出来事が記憶のどこかにしまい込まれ、大人になった自分の一部になっていくということです。園生活が子どもたちのウェルビーイングとなり、いろいろな場面で思い出す原風景となることを思いながら、今学期も子どもたち、保護者・地域の皆様とともに園環境をつくっていきたいと思います。